診療局：整形外科

＜スタッフ紹介＞

役　　職	スタッフ名
部長兼脊椎センター長 兼機能外傷センター脊椎外傷部門長	金澤　元宣
部長兼人工関節センター長	澤田　典与司
医　員	丹澤　俊樹
医　員	山田　慶貴
非常勤医員	前田　翔一郎

＜特色と概要＞

当院の整形外科部門は大阪大学整形外科(医学系研究科器官制御外科学)教室の関連病院の一つとして日本整形外科学会専門医プログラムに属しており、指導的立場にある日本整形外科学会認定専門医3名が教育及び診療を行っている。

脊椎センター、人工関節センター、機能外傷センターを併設し、脊椎外科手術／下肢人工関節手術、四肢体幹外傷手術を中心に高度な専門的治療に力を注いでいる。その他、骨・軟部悪性腫瘍など特殊な治療が必要と判断された疾患に対しては、大阪大学関連病院のネットワークを利用し、各疾患に応じた専門治療が可能な医療施設への紹介を行っている。脊椎センターではあらゆる脊椎・脊髄疾患、脊椎外傷に対応できるよう心掛けている。人工関節センターではナビゲーションシステムを用いたコンピューター支援手術を行っており、より正確な人工関節の設置が可能となっている。

2025年度は、金澤元宣整形外科部長（兼脊椎センター長）、澤田典与司整形外科部長（兼人工関節センター長）を中心に5名の整形外科体制で前記の専門外来を中心に各種整形外科疾患に対応している。また泉州救命救急センター・機能外傷センターとも密に連携し、特に脊髄、脊椎損傷や四肢外傷の手術的治療を積極的に行っている。

新研修医制度に従い、初期研修1年目の新研修医に対しては外科系研修の一環として外傷プライマリケアの指導を、初期研修2年目の整形外科専攻を希望する研修医に対しては最大6ヵ月の整形外科専門研修指導を行う。また卒後3年目以降の後期研修医に対しては、大阪大学整形外科後期研修プログラムに則り、整形外科専門医を育成するための研修指導を実践している。また研修医には診断能力や診療技術の習得のみでなく、学会発表や論文投稿などの学術的な面でも整形外科学の発展に将来寄与できるような医師を目指すことを求めている。

外来診療:

平日は地域医療機関よりの紹介を中心に外来診療を午前2診で行っている。2013年1月より予約制を導入し、地域の医療機関と連携し円滑な外来診療をこころがけ、特に脊椎外科および関節外科領域に特化した診療を行っている。

手術以外の保存的治療については、火曜午後と金曜午後に義肢装具を要する患者への処方を目的とする装具外来診を行っている。また長期間にわたる継続的な保存的な治療の必要性が見込まれる慢性疾患に対しては、まず当院で最新の画像診断機器等を用いた原疾患の診断と重症度、進行度を正確に評価し治療方針を決定する。その後、理学療法や内服処方による通院治療の実践は地域医療ネットワーク（病病連携、病診連携など）を通して適切な地域内各医療施設へ紹介している。

入院診療:

7階海側病棟に計28床の急性期病床を確保している。年間約500件の入院手術を行っている。原則としてリハビリや安静目的のみの保存治療を目的とした入院は病床管理のうえで物理的に不可能であり、外来受診の時点で前述の地域医療ネットワークを通して適切な他の医療機関に紹介している。また術後安定期に入り、さらにリハビリの継続が必要と判断される患者に対しても、一定した質の高い専門的なリハビリができる病院を泉州地域内に確保し連携を密にしている。

近年、患者が理解しやすい十分な説明が可能なことと、限られた医療資源を効率よく運用するために、入院治療においてはクリニカルパスの重要性が広く認識されるようになった。当科では予定手術の場合、入院から手術、後療法(リハビリ)、退院までほぼ全症例でクリニカルパスを用いて実践している。

今後も周辺地域の病院・診療所と密接な協力関係を保ちつつ、地域基幹病院の整形外科部門として果たすべき役割を永続的に担うことが当科の目標である。

専門診療:

下記4部門を専門分野とし、手術治療に力を入れている。

1）脊椎外科（担当：金澤）

- ・頚髄症性脊髄症に対する椎弓形成術、前方および後方除圧固定術など
- ・腰椎変性疾患に対する後方侵入椎体間固定術、開窓術、内視鏡手術
- ・椎間板ヘルニアに対する椎間板摘出術　など

・リウマチ、脊椎腫瘍に対する手術、骨粗鬆症性椎体圧壊に対する手術
・脊椎・脊髄損傷に対する手術治療

2）下肢人工関節（担当：澤田）
・ナビゲーションシステムを用いたコンピューター支援手術による人工関節手術
・変形性関節症、リウマチによる股関節症、膝関節症に対する人工関節置換術
・人工関節の緩み症例に対する再置換術
など、膝関節・股関節に特化した専門治療を行っている。

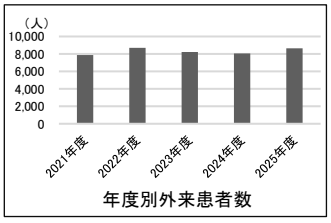
3）関節リウマチの手術治療
・脊椎病変や股関節、膝関節病変に対する手術治療

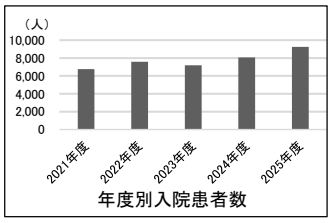
4）四肢外傷（多発外傷、骨盤を含む）（担当：日下部）
・救命救急センター・機能外傷センターと連携し診療を行っている。

＜実績＞

患者数（外来及び入院、延べ人数の推移）　（人）

年度	外来		入院	
	延べ患者数	1日平均	延べ患者数	1日平均
2021年度	7,876	32.5	6,756	18.5
2022年度	8,691	35.8	7,582	20.8
2023年度	8,219	33.8	7,189	19.6
2024年度	8,064	33.2	8,056	22.1
2025年度	8,644	35.7	9,239	25.3





入院患者の疾患名と人数（主病名件数　上位50まで）
（期間2025/4/1-2026/3/31退院）

主病名（ICD10コード名）	ICD10	件数
原発性膝関節症，両側性	M170	69
脊柱管狭窄（症），腰部	M4806	43
その他の原発性股関節症	M161	30
その他の原発性膝関節症	M171	28
鎖骨骨折；閉鎖性	S4200	25
原発性股関節症，両側性	M160	24
ミエロパチ＜シ＞ー＜脊髄障害＞を伴うその他の脊椎症，頸部	M4712	15
橈骨遠位端骨折；閉鎖性	S5250	12
大腿骨頚部骨折；閉鎖性	S7200	12
腰椎骨折；閉鎖性	S3200	12
体内関節プロステーシスによる感染症及び炎症性反応	T845	9
脊椎すべり症，腰部	M4316	9
転子貫通骨折；閉鎖性	S7210	8
処置に続発する感染症，他に分類されないもの	T814	7
体内関節プロステーシスの機械的合併症	T840	6
股関節症，詳細不明	M169	6
頚髄のその他及び詳細不明の損傷	S141	6
骨え＜壊＞死，詳細不明，骨盤部及び大腿	M8795	6
尺骨及び橈骨の両遠位端の骨折；閉鎖性	S5260	4
整形外科的挿入物，関節プロステーシス又は骨プレートの使用後に続発する骨折	M966	4
上腕骨骨幹部骨折；閉鎖性	S4230	3
大腿骨骨幹部骨折；閉鎖性	S7230	3
第2頚椎骨折；閉鎖性	S1210	3
脛骨近位端骨折；閉鎖性	S8210	3
胸椎骨折；閉鎖性	S2200	3
上腕骨近位端骨折；閉鎖性	S4220	3
骨の特発性無菌＜腐＞性え＜壊＞死，骨盤部及び大腿	M8705	3
外科的及び内科的ケアのその他の明示された合併症，他に分類されないもの	T888	3
肩鎖関節脱臼	S431	3
踵骨骨折；閉鎖性	S9200	3
膝蓋骨骨折；閉鎖性	S8200	2
中足骨骨折；閉鎖性	S9230	2
脊髄疾患，詳細不明	G959	2
下背部痛，腰部	M5456	2
股関節部のその他の先天（性）変形	Q658	2
骨折の骨癒合不全［偽関節］，骨盤部及び大腿	M8415	2
脛骨骨幹部骨折；開放性	S8221	2
骨折の骨癒合不全［偽関節］，部位不明	M8419	2
その他の明示された椎間板ヘルニア＜変位＞	M512	2
化膿性関節炎，詳細不明，下腿	M0096	2
腸骨骨折；閉鎖性	S3230	2
尺骨及び橈骨の両骨幹部の骨折；閉鎖性	S5240	2
膝蓋骨の脱臼	S830	2
尺骨近位端骨折；閉鎖性	S5200	2
腰椎及び骨盤のその他及び部位不明の骨折；閉鎖性	S3280	2
寛骨臼骨折；閉鎖性	S3240	2
脛骨骨幹部骨折；閉鎖性	S8220	2
その他の脊椎症，部位不明	M4789	2
脊椎分離症，腰部	M4306	2
橈骨茎状突起腱鞘炎［ド・ケルヴァン＜de Quervain＞病］，前腕	M6543	1

検査治療数集計

診療明細名称	件数
脊椎手術	**229**
脊椎悪性腫瘍手術	1
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）（後方椎体固定）	35
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）（後方又は後側方固定）	97
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）（前方後方同時固定）	5
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）（前方椎体固定）	1
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）（椎弓形成）	34
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）（椎弓切除）	36
脊椎内異物（挿入物）除去術	14
体外式脊椎固定術	6
脊椎手術	**110**
人工関節置換術（膝）	109
人工関節抜去術（膝）	1
人工股関節手術	**68**
人工関節再置換術（股）	2
人工関節置換術（股）	66

＜今年度の成果と来年度への抱負＞

脊椎、人工関節、外傷手術領域については専門的な治療を提供できたと考える。今後、外来診療において更に充実させていきたい。

引き続き、背椎及び人工関節、外傷領域において専門的な治療を継続する。

肩関節疾患など専門領域外の治療については、大阪大学整形外科の関連施設の強みを生かして、適切な医療機関に紹介させていただいている。